

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成30年度）
 ー 研究課題 1 高等学校 ー

都道府県・指定都市番号	2	都道府県・指定都市名	青森県
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

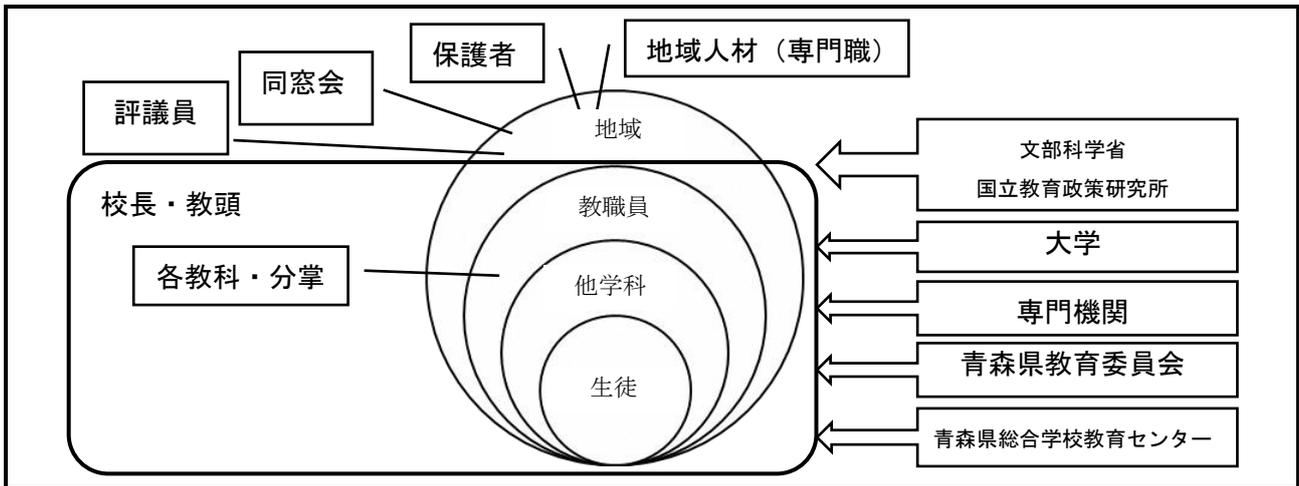
1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	あおもりけんりつひろさきじつぎょうこうとうがっこう 青森県立弘前実業高等学校			ふりがな 校長氏名	ふくし こうじ 福士 広司
所在地	〒036-8155 青森県弘前市中野三丁目 6-10 電話 0172-32-7151 FAX 0172-37-2935 e-mail ed-hiro-jitsu@pref.aomori.lg.jp				
設置する 課程 (H30.4.1 見込)	全日制の課程			(H30.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 66 名	
生徒数 (H30.4.1 見込)				[調査研究にかかわる教科等の教員数]	
学科名	1年	2年	3年	計	
農業経営科	40	39	40	119	
商業科	80	80	80	240	
情報処理科	40	40	40	120	
家庭科学科	40	40	40	120	
服飾デザイン科	40	39	39	118	
スポーツ科学科	40	40	40	120	
特記事項					

2 研究主題等

教科等名	家庭（専門教科）	教科課題番号等	1
学校における研究主題	生活産業を担う職業人として必要な資質・能力を明確にした指導方法及び評価方法に関する研究		
研究主題設定の理由	<p>本校の家庭に関する学科に在籍する生徒は、家庭科学科、服飾デザイン科ともに、専門科目に対する意欲が高い。それは、両学科がこれまでの蓄積をもとに、それぞれの目標を達成するために特色を生かした教育活動を展開してきたからといえる。しかしながら、両学科が地域に根ざし特色ある学科としてさらに発展していくためには、生徒の実態や、地域のニーズを的確に把握し検証するとともに、学科相互の連携をより一層工夫する必要があると考える。</p> <p>そこで、これらの現状を踏まえ、伝統校としての蓄積を生かしながら、両学科が共通に履修する原則履修科目「生活産業基礎」を中心に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした指導方法や評価方法を研究するとともに、両学科が、カリキュラム・マネジメントを通じた改善・充実を図ることで、学校全体はもとより、地域の活性化にもつながると考え、本研究の主題を設定した。</p>		
研究の内容	<p>○職業人に求められるマネジメントの重要性に着目した「生活産業基礎」の効果的な指導方法の工夫 消費者の多様なニーズを的確に把握し、商品・サービスの開発から販売・提供に結び付けていく流れについて、両学科でその指導方法を研究する。</p> <p>○家庭科学科、服飾デザイン科の学科運営の工夫 地域に根ざし貢献する学科として、教員間の協力体制などを検証し、学科相互のより一層の連携を図り、地域活性化につなげる工夫をする。</p>		

3 研究体制等



4 研究計画 ●生徒の取組 ○教員の取組

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
平成30年度	<p>1 学期</p> <p>○これまでの教科指導の評価・改善 今後の授業改善につなげるために、これまでの指導方法について振り返る機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師個人の振り返り ・学科としての振り返り ・学科相互の振り返り <p>授業改善の方策の具体化及び生徒が主体的に学ぶための指導方法について検討する。 「生活産業基礎」「各専門科目」</p> <p>○生徒に育みたい資質・能力の検討 職業人に求められるマネジメント力に着目した指導方法について検討する。</p> <p>○資質・能力を意識した指導体系図の作成に向けて教員間の情報共有を密接に行う。</p> <p>●地域の生活産業に関するニーズをリサーチする。</p>	<p>○課題の明確化及び指導と評価の一体化を図ることができる。</p> <p>○振り返りの機会を数回設けることで教師は、客観的に指導方法を改善することができる。</p> <p>○身に付ける資質・能力を明確にすることで各学科の特質が明らかになり、専門科目の指導において評価・改善が容易となり、より効果的な指導について検討することができる。</p> <p>○両学科が、専門学科として身に付けるべき資質・能力を明確にするとともに、学科の特色を生かした地域資源の有効活用について意見交換することで、各学科の専門性を発揮できる内容を確認することができる。各科共通で育みたい資質・能力の共通項を見だし、生徒の活動に生かすことができる。</p> <p>●地域の現状、生活産業の多様化・複合化の要因を把握できる。</p>
	<p>2 学期</p> <p>●外部講師による講演及び体験活動（校外）に参加する。</p> <p>●「生活産業基礎」で企画した内容を実施する。 2、3年生に評価やアドバイスを依頼する。</p>	<p>●職業人に求められる資質・能力及び役割に気づき、専門科目の学習と関連付けて考えることができるようになる。</p> <p>●科内で企画した内容を実施し、その結果を相互評価したり、先輩からのアドバイスを受けたりすることで、成果や課題を明確に把握するこ</p>

平成 31 年度	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●「課題研究」に向けた意見交換を行う。 (6 学科合同「課題研究」発表会) ○1 年次の振り返り、まとめ及び次年度の計画を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を意識した指導体系図の作成 ・生徒の変容分析 ○1 年次報告（2 月協議会）に参加する。 	<p>とができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「課題研究」の時間を活用して、意見交換を行うことで、各科の相互理解や相互評価に結び付けることができる。 ○1 年次の活動結果を成果と課題に分類・分析し、次年度に向けた改善事項や継続事項を整理する。このデータを基に次年度計画を作成することができる。 ○1 年次のまとめに対する参加者からのフィードバックを次年度の活動等に生かす。
	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活産業基礎」及び「専門科目」において、教科指導の評価・改善に取り組む。 専門科目の学習の系統性を意識した展開を工夫する。 ●新 2 年生参加による「生活産業基礎」のオリエンテーションを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1 年次に取り入れた学習活動を見直す。 ○両学科の連携が強化されることで、より効果的な指導へとつながる。 ●新 1 年生は上級生の発表を通して学習を見通すことができる。
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○●公開授業及び生徒による成果発表会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外部評価を実施するとともに、研究成果を共有することができる。
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ○2 年次の成果を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の総括を行う。

5 研究のまとめの見通し

- アンケートによる生徒の変容分析
- 資質・能力を意識した年間指導計画の作成及び評価の分析
- 外部人材による事前評価、事後評価の分析